

東大比較文學會2013年度若手奨励研究コロキウム

共有・記憶・伝播

— 見ること、見せることの意味 —

2013年12月20日（金） 14時～17時

東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム3

発表1：「源氏の須磨・明石の絵日記の考察」

発表者：李 芙鏞（東京大学大学院比較文学比較文化コース博士課程）

ディスカッサント：田村 隆（東京大学大学院総合文化研究科講師）

発表2：「ポストジャポニスム時代の日本美術愛好の行方 —レイモン・ケクランとガストン・ミジョンを例として—」

発表者：林 久美子（東洋大学社会学部非常勤講師）

ディスカッサント：佐々木 悠介（駿河台大学ほか非常勤講師）